

# 令和5年度 総務委員会 活動方針

副 会 長 宮本 昌尚  
専務理事 山口 泰一  
委 員 長 田城 敏史

## 1. 総会、理事会など諸会議の設営

組織全体の動きを把握しながら、理事会や各事業が円滑に運営できるように努める。

諸会議が、有意義かつ効率的な議論の場となるよう凡事徹底して準備、運営を行う。

インターネットを活用したオンライン会議の経験を活かし、ハイブリッド形式などの会議運営を今後も積極的に活用し、さらに新しい会議の形を模索していく。

## 2. 地区間交流助成事業の実施

本年度も引き続き地区間交流助成事業を実施する。徐々に県境を越えての活動が活発化してきていることから、多くの学校園にさらに積極的に活用していただけるように事業の拡大と活動事例等の広報活動を行っていく。

## 3. 第4回「全附P連みんながつながるオンライン文化祭2023」の運営

本事業の「コロナ禍の中で発表の機会を失っていた園児・児童・生徒に新たな発表の場を提供する」という本来の目的については、社会環境の変化からも一定の役割を果たし目的を達成したと考えられる。しかし、全附P連としての活動方針にある「附属学校の持つ独自性や創造性、社会的使命、存在意義、現状などをそれぞれの地域社会および全国的に発信することにより広く世の中の理解と支援を得る」ことに寄与することを目的とし、本事業の再構築を行う。

## 4. P T A表彰

他の学校の模範かつ先進的で優れた活動を行った団体を表彰する。多くの応募をいただけるよう周知、工夫を行っていく。

## 5. 対外組織との連携を図る

文部科学省をはじめとする関係省庁、関係団体との連携をより強固なものにし、積極的に連携、交流を図れるように、連絡調整に努める。また、「全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会」とも連携し、定期的に意見交換をする機会を準備する。

## 6. その他

特別委員会でのいじめ防止対策活動事業へ参画する。

運営企画会議、P T A研修会第14回全国大会へ参画する。

## 令和5年度 財務委員会 活動方針

副会長 森川 誠  
副会長 高地 たか子  
委員長 後藤 友樹

### 1. 会計業務全般

事務局と連携して、定期的に現金および預金の残高および現金出納帳と預金通帳の収支の確認を行う。また、予算の執行状況について確認をするとともに、理事会においてその執行状況と今後の決算の見込みについて報告し、事業予算の適正執行にむけて、事業の推移を適宜確認する。また、印刷費など物価の高騰により単価が上がる可能性があり慎重に予算計上する。今年度は特別委員会の予算計上があり推移を注視する。

### 2. カンガルー保険関係業務

カンガルー保険を広く普及させるための啓発活動を行う。また、GIGAスクール構想に伴い支給されているパソコンやタブレット端末の破損に対する保険についての見直し、学校管理下でない放課後活動（クラブ活動など）時における補償の検討など時代に即した保険となるよう、保険会社と協力しさらなる内容の充実を目指す。

### 3. GIGAスクール、働き方改革に関する調査

GIGAスクール構想による取組の現状調査及び構築。  
働き方改革による教員の現状調査を行う。

### 4. 財政教育プログラム関係業務（財務省とも連携）

財務省と連携し、財政教育プログラムのさらなる普及推進活動を行う。

### 5. 金融経済教育プログラム関係業務（金融庁との連携）

金融庁と連携し、金融経済教室プログラムの内容の充実およびさらなる普及活動を推進する。

### 6. その他

特別委員会でのいじめ防止対策活動事業へ参画する。  
運営企画会議、PTA研修会第14回全国大会へ参画する。

# 令和5年度 広報委員会 活動方針

副会長 二村 美里  
副会長 齋藤 伸  
委員長 羌 叡應

## 1. 広報活動全般（情報収集、情報発信、取材対応）

全附P連における広報活動全般として、従来の委員会活動に加え、今後の附属学校園の在り方を考える上で重要となる「不断の改革と周知」について、他の委員会と共に多様な媒体を用い、全国の附属学校園及び全附P連の各種情報を収集し発信する。

またその発信方法として、積極的に紙書類の電子化を導入し、SDGsを考慮したエコ活動の推進と併せ、作業の効率化を図る。

その他、全附P連パンフレットを2020年度版から重版し、最新情報へ刷新することで、全附P連のイメージをより戦略的に展開できるように図る。

## 2. 附属だよりの企画、取材、編集、発行

全附P連の活動方針、組織紹介、各事業報告等、全国の附属学校園及び単位PTAの特色ある試みを広く紹介する。また附属OB、OG訪問、省庁や連盟等のキーパーソンへのご寄稿依頼に新しい視点をもって取り組む。

紙面の改善を常に心掛け、読みやすく、わかりやすい広報誌の作成に努める。

## 3. ホームページの企画、運営

全国の附属学校園及び単位PTAの活動が、地域社会から一層の理解や支援が得られるよう、また全附P連の活動を世界へ向けて発信できるよう、最新情報を速やかに更新し、会員だけでなくより多くの方々が興味を持ち閲覧できるホームページの仕組みを検討する。

## 4. 絵画コンクールの実施

本年度は、名古屋大学教育学部附属中・高等学校を主管校とし、『ウキウキワクワクするもの皆教えて!!』をテーマに全国の附属学校園より絵画作品を募集します。

作品の紛失等のリスク軽減や管理及び審査の負担軽減の効果を求め、フォトコンテストシステムを使用した募集や審査を行うと共に、入賞作品の発表を含む事業全般を全附連のホームページやその他の電子ツール、附属だより等で紹介し、次年度開催への啓発を図る。

## 5. 作文・絵作文コンクールの実施

本年度も昨年度同様、教師の職責に対し、理解が深まるよう設けられた「教師の日」に因み、テーマは、『「先生へのメッセージ」や「先生との思い出」など先生に対しての作文』とする。

事業に対する子どもたちの興味や関心を一層高め、数多くの応募につながるよう、審査方法や募集時期、周知方法を再考する。

また入賞作品の発表等、事業全般を全附連のホームページやその他の電子ツール、附属だより等で紹介する等、事業周知に一層努める。

## 6. その他

特別広報活動として、附属学校園に関連する戦略的広報活動や、世界へ向けて全附P連の活動を発信するSNSおよびYouTubeチャンネル等の電子ツールを活用した企画運営を行う。

また特別委員会及び全国大会実行委員会等、他の委員会との横断的な企画参画を図り、一層の広報活動の充実に努める。

## 令和5年度 研修委員会 活動方針

副会長 高地 たか子

副会長 二村 美里

委員長 真壁 雄一

### 1. P T A研修会第14回全国大会の企画、運営

P T A研修会全国大会を通じ、直面する教育課題やP T Aの運営などについて討議や意見交換を行う。「子どもたちとこの国の未来のために ～新時代の扉を開こう！これから求められる力とは～」の大会スローガンのもとに、コロナ禍で制限された生活環境から抜け出し、附属学校での新たな取り組みについて共に考察できるような機会を設ける。また、休止していた交流会を開催できるように検討・準備をすすめる。昨年度のテーマだったS D G sの観点から、オンライン配信、資料をペーパーレス、エコバックの使用など好評だったことは継続して続ける。

### 2. 全国大会実行委員会の運営

関係者全員で企画、運営する全国大会にするため、全国大会実行委員会の運営を計画、準備、活動を行う。

### 3. P T A研修会第15回全国大会の企画

第14回全国大会までの結果を分析し、第15回全国大会が参加者にとってより魅力ある大会となるよう企画、立案を行う。そのうえでその後の大会運営も視野に入れ、円滑に運営できるように準備する。

### 4. 国立大学附属学校全国同窓会との連携、大同窓会運営協力

国立大学附属学校全国同窓会は、附属学校に思いを寄せる時間を共有することで、附属学校の応援の輪を広げていくことを目的に、平成31年3月に設立され、令和5年3月に第2回大同窓会が開催された。

同窓会事務局と連携し、第3回大同窓会の開催に協力する。

### 5. 附属学校の産学連携に関する調査研究

附属学校の産学連携事業の実際を調査し、集約、周知、研究を行う。

### 6. 附属学校の存在意義を高める教育プログラムの開発

これまでの受動的な学びから、能動的かつ体験型の学びへと教育は変わろうとしている。附属学校は日本の公教育を支える国の拠点校、地域のモデル校としての役割が求められていることを再認識し、子どもたちが「生きる力」を育めるよう、附属学校での取り組みをまとめ、広く情報共有ができる仕組みを構築する。

### 7. 広報活動

広報委員会と連携し、全附P連の活動についてより広く知っていただけるよう、P R活動を行う。

### 8. その他

特別委員会でのいじめ防止対策活動事業へ参画する。

運営企画会議、P T A研修会第14回全国大会へ参画する。

# 令和5年度 幼稚園特別支援委員会 活動方針

副会長 齋藤 伸  
副会長 宮本 昌尚  
委員長 世古 丈人

## 1. カンガルーシップ活動助成事業の企画・実施

校種を超えて子ども・教職員・保護者が連携し「理解」と「共生」を育む活動のサポートを行う。

「理解プロジェクト」「共生プロジェクト」「就労支援活動」「ネイバーサポート活動」の4つの活動に助成をし、申請事業内容の精査および申請者へのアドバイスを実施する。

また、活動実施報告を全附属ホームページ、SNS等で広く発信し、本事業への理解と利用促進を図る。

## 2. 特別支援学校・学級に関する調査研究

特別支援学校・学級を視察し、そこでの課題や現在の取組・成果について調査を行う。

調査研究報告を全附属ホームページ、SNSで広く発信し各校園間での情報共有、連携、協働を推進する。

## 3. 就労支援に関する調査研究

地域での特別支援学校卒業後に向けた課題および有益な取り組みについて収集、発信を行う。

就労を含む希望する進路実現につながる各団体との連携を推進する。

## 4. あいサポート運動関係業務

各地区にメッセージャーを養成し全国であいサポーター研修を行える仕組みを整え、学校全体であいサポーターの養成モデル校となっていただけの学校を募るほか、コロナ禍においてもリモートを活用するなど積極的な活動を行う。

## 5. 附属幼稚園の取り組みに関する調査研究

附属幼稚園を視察し、そこでの課題や現在の取組、成果について調査を行う。

## 6. 関係団体、特別支援学校との連携

附属特別支援学校の存在意義を広げる可能性のある団体と積極的に接触し、特別支援学校PTA活動に有益な情報を持つ団体と交流を深め、情報の発信に努める。

## 7. その他

幼稚園と特別支援学校、学級における保護者間交流を推進する。

関連団体への視察や各地区連合会などへ参加し、幼稚園特別支援委員会の活動が広く知れわたるよう広報活動へ協力する。

研修委員会をはじめ各委員会と連携し、幼稚園と特別支援学校、学級に関する情報の発信を行う。

特別委員会でのいじめ防止対策活動事業へ参画する。

運営企画会議、PTA研修会第14回全国大会へ参画する。